

## 2020東京オリンピック招致

「今、ニッポンにはこの夢の力が必要だ。」をスローガンに掲げ、オリンピック招致に東京は挑んでいる。震災復興や閉塞感打破のため、スポーツの力でニッポン復活を目指す。立候補都市やその国の住民でなければオリンピック招致レースへの関心はあまり抱かないだろう、そのためオリンピック招致レースの現状を伝えようと思う。現在、東京・マドリード・イスタンブールが立候補し招致活動を行っている、各都市の状況を紹介する。

国名	メリット	デメリット
東京	安定したインフラ。治安の良さ。復興。コンパクトな大会開催。	現状でさえ混雑している都市部へのオリンピックによる更なる混乱。
マドリード	スマートな五輪。施設・交通面で好評価。	経済危機。欧州での連続開催に対するIOCの評価への懸念。影響力が大きかったサラマンチIOC元会長の喪失。低予算。
イスタンブール	イスラム圏初開催に対して「世界の融和」を掲げる。好調な経済状況。	イスラム圏開催への不安。テロや国内の反政府組織。テロへの懸念。国際大会開催経験の不足。

### 東京

2016年に続いて今回の招致候補にも立候補した東京都はインフラ、治安、復興の3点をポイントとして挙げ、女子サッカーの澤穂希選手や女子レスリングの吉田沙保里選手が招致アンバサダーとして活動を行っている。

東京は「コンパクトな大会開催」をかかげ、選手村を中心とした半径8キロ圏内に競技会場の85%を設置することで、選手の移動を容易にし、負担を軽減することを目的としている。ホテルは世界最高水準の設備とサービスを備え、IOCの評価委員会からは満点の評価を得ている。治安の面でも諸外国に比べて犯罪発生率が極めて低く、優れた警察組織も備えているために国際テロ組織によるテロ事件は未だ発生したことがない。

こうしたメリットには反面性もある。通勤・帰宅ラッシュ時でさえダイヤに乱れが生じている東京で、土地勘のない外国人が一極集中的に加われば、さらに混乱が生じる可能性もある。

だがこうした事態に対する準備も東京は怠っていない。まず世界有数である鉄道インフラをさらに輸送力増強のために拡充、拡張を行う予定だ。さらには警視庁が地区ごとに警察署、及び「交番・駐在所等」を設置しており、防犯の中心的役割を担う。また法令制定後、テロに対して重要施設や集客施設の警戒・警備を強化するとともに、テロリストの入

国阻止、テロ関連物質・資金の封じ込め、関連情報の収集及強化に取り組んでいる。

2011年3月11日に東日本大震災の被災地東北にも活気を与えることができ、オリンピックを日本で開催することは大きな意味を持つ。オリンピックは東京のみで行われる大会ではなく、福島での聖火リレーや宮城スタジアムでのサッカー予選が計画されており、東北の復興につながることは間違いない。また猪瀬東京都知事は東京オリンピックについて、「復興に向けた大きな目標になり、世界中から受けた励ましや支援に対しての返礼の場にもなる。」と述べている。

#### マドリード

2012・16年に続き三度目の挑戦となるスペインの首都マドリード、2020年では運営を簡素化する「スマートな五輪」を打ち出した。スペインは経済危機に直面しているため、30億9600万ドル（東京は45億ドル）を予算として打ち出している。マドリードは施設・交通面で高評価を得ている。高評価を受けた施設面については、現計画では80%を既存の施設で賄う予定だ。都心部から10kmにある「マドリードスタジアム」をメインスタジアムにし、サッカーは施設環境の良さで有名なレアル・マドリードのホームスタジアム「サンチャゴ・ベルナベウ」を利用する。サッカーの世界的メガクラブ、レアル・マドリードが全面協力しているのも大きな力となっている。

しかし、スペインでは近年の経済不安が懸念されている。低予算な計画は、IOC委員からの評価が低い。スペインは過去13年間で最悪の経済危機に陥り、失業率21.29%、失業者490万人、若年失業率は52%を超えており、雇用の創出が目下の課題である。また、IOC内で権威のあった、スペイン人のサマランチIOC元会長が亡くなり、大きな推進力を失ったことも打撃となっている。

#### イスタンブール

イスタンブールは5度目の招致挑戦となるが、今回は初のイスラム圏でのオリンピック開催を機に「世界の融和」という大きなコンセプトを擁し招致に臨む。2010年の生産年齢人口比率（15～64歳の比率）は67.7%と高く、教育水準もよく、勤勉な労働者が多い。こうした要因が2010年の名目GDP総額に基づく順位で世界第17位、欧州で第7位という経済規模をもたらしている。こうした好調な経済状況を招致の追い風にしている。治安においてトルコは「ゼロ・プロブレム外交」を標榜して穏健路線を採り、テロ問題のあるイスラム圏の国とも友好関係を築いている。

その一方でイスタンブールは土地に高低差があり、海で分断されていることによる公共交通機関の不便さが指摘され、他の候補地と比較して国際大会開催の経験不足も弱点となっている。もしイスタンブールへの招致が実現すればイスラム圏初の開催となるが、9.11以降、世界とイスラム圏との付き合いは複雑化しており、実際に世界で起きている多くの

紛争・問題がイスラム絡みというのが現状だ。友好的な外交をしているトルコも、国内に大きなテロの危険が潜んでいる。現在、クルド人で組織された反政府組織の「クルディスタン労働党（PKK）」が、シリア内戦の激化の中、反シリア政府活動に呼応してトルコ南東部で政府軍と武力衝突を引き起こしている。トルコ政府はシリア内戦がクルド人の国内での独立運動の高まりを引き起こす可能性や主要都市でのテロなどを懸念している。

3都市の招致活動は激しいものとなってきている。現在は東京・マドリードが好評化を得ているが、何が起こるかわからないのもオリンピック招致レースのおもしろさである。過去の印象的な二つの例を見てみよう。

#### ロンドンの逆転勝利

オリンピック招致の成功例として2012年夏季オリンピックでのロンドンの逆転勝利がある。この年の招致レースはロンドン、パリ、マドリード、モスクワ、ニューヨークの5都市が最終候補都市となり、今までで最も熾烈な争いといわれていた。はじめは一次選考で高評価を得たパリとマドリードがリードするかたちでスタートしたがロンドン、パリ、マドリードに絞られた後にマドリードが脱落した。脱落した理由として挙げられたのは、バルセロナオリンピックを開催してから20年しかたっていないこと、また招致レース中に起きた列車爆破テロがマドリードの治安に対する不安感を高めたこと、の二点であり、パリは安定したインフラに対し、一次評価でもっとも高い評価を得ていた。しかしセバスチャン・コー招致委員会会長率いるロンドンの招致委員会が、選手の意見を開催計画に生かした「選手による、選手のための五輪」を掲げメディアで強調し追い上げはじめた。1番の誘致成功の要因は熱心なロビー活動であり、世界的な人気を誇るサッカー選手のデビッド・ベッカムなどを導引し、IOC委員会の投票者に直接働きかける作戦がロンドンの逆転勝利を導いた。今後始まるロビー活動は招致成功に大きな影響を持っていて、現在後れをとっているトルコにも大きな逆転のチャンスがある。

#### デトロイト

景気や治安の悪化が招致失敗につながる例として、デトロイトの6大会連続招致失敗がある。デトロイトは1952年大会から72年までの6大会連続で招致活動を行うが、いずれも落選した。自動車工業の町として知られるデトロイトは、1950年代その好景気を武器にオリンピック招致に挑み始める。しかしオリンピック招致の準備とノウハウがわかってきた1960年代からコストパフォーマンスに優れた日本車の台頭も影響し、景気が悪化した。それにともない治安の面でも1967年のアフリカ系アメリカ人によるデトロイト暴動により街の治安は悪化した。このような状況からデトロイトは何度も招致に失敗する。同じく経済不安のあるスペイン・マドリードも治安の悪化が起きたら招致成功に大きな壁となるであろう。



最終候補3都市の現状を見てきたが、今現在東京の充実した計画はI O C委員に広く認識されており、于再清I O C副会長（中国）が「東京がベスト」と断言したように、有力候補として最終選考に突入する。しかし、上記の例のようにオリンピック招致は何が起きるかわからない。田恒和・東京招致委員会理事長は「国民の皆さんに五輪開催の意義をご理解いただいて招致を成功させたい」と言っている。さらに僕らは日本の学生として東京のオリンピック招致を支持したい。